

企業名： アズビル株式会社

レポート名： 統合報告書 2026

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

将来的な目標が具体的に提示されていて、かなり理解しやすいと考えられる。今までに培ってきた実績や歴史を示すとともに、“進化・共創”というテーマを設定してオートメーション事業を中心とした将来的な計画を示している。「トップメッセージ」の項目を見ると、社長・副社長がそれぞれ、過去の年度の前中期経営計画を振り返るとともに、新中期経営計画や長期目標についての方針やポイントを述べている点で、この企業の目指す将来像の説明が説得力のあるものになっていたように感じる。同様の、振り返りから中期経営計画という流れはトップメッセージ以外でも詳しく述べられていたため、かなり解像度が高いといえる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

競争優位性もかなり理解しやすいと考えられる。創業以来蓄積された知見やノウハウと、最新技術の活用を融合したオートメーションが強みといえる。当企業はビルディングオートメーション事業、アドバイスオートメーション事業、ライフオートメーション事業、グローバル戦略、の4つについて、それぞれ特徴・強み、前中期経営計画の振り返り、機会とリスク、中期経営計画達成に向けた施策を説明している。各事業の競争優位性がわかるとともに、機会とリスクを分析し競争優位性の持続への取り組みもわかるようになっている。自社だけでなく市場も分析している点で、その中での競争優位性がわかりやすくなっているのではないかと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

競争優位性の持続性も理解しやすい。Azbil グループらしい事業モデルとして、成長事業への投資と基盤事業への投資のサイクルにより、顧客基盤の拡大と成長を実現するというものが述べられていた。これは企業の安定性と成長性を両立するものと言え、競争優位性が持続することが見て取れる。また、SDGs 目標を設定するとともに、CSR 活動においても具体的な目標を定めており、サステナビリティ経営に取り組んでいる。サステナビリティ経営に関する記述が多くみられたことから、将来的な競争優位性の維持のためにかなり注力しているように感じる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると考えられる。azbil グループの経営資源・価値創造の源泉として、6つの資本が挙げられている。その項目ごとに説明がされているのだが、その中で人的資本は「当社グループにとって最も大事な資本です。社員一人ひとりが最大限に力を発揮できるよう取り組んでいます。」と述べられている。具体的には3つの柱で人的資本強化が行われていて、人事制度改革と人材確保、キャリア自律の人材育成、社員のエンゲージメント向上の3つである。特に、アズビル・アカデミーでの人財育成は特徴的だと言え、教育のシステムと働きやすい環境づくりによって、人的資本の価値向上が達成されることが考えられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかった点として、図表が多く使われている点と、経営陣へのQ&Aが掲載されている点が挙げられる。図表を用いることで当社の事業の仕組みや人財育成のシステムがわかりやすいとともに、数字によって説得力が増していた。また経営陣の考え方がわかることは、投資家にとってかなり有益であると考えられるので、この点が非常に良いと感じた。また中期経営計画とのつながりが大きく、これを見る人々にとっては、上で述べたQ&Aと合わせて経営陣の考え方を把握しやすい資料だと感じた。改善余地はほとんどないよう思ったが、挙げるとしたら、人的資本の育成の内容の指標のみでなく、人的資本の育成がどれだけ利益や事業の成長に結びついたかを示せるような指標が出せるのならば、それを記述すれば育成の成果がわかりやすくなるのではないかと感じた。